

(^_^)v 趣味に生きる (第18回) ~. ~. ~. ~. ~. ~.

相撲の町で暮らす

菊池 春人

(慶應義塾大学医学部 臨床検査医学・慶應義塾大学病院 中央臨床検査部)

◆はじめに

ある筋より、このコーナーで相撲について書くように、という圧力があって執筆することになりました。しかし、本来の小生の趣味は、シンセサイザーを演奏すること、にしているのですが、まだこのコーナーに載せていただけるレベルではないので、一応指示にしたがって相撲について書くことにいたしました。とはいうものの、これまでのこのシリーズのお話はかなり格調高いものばかりで、はたして相撲について書くことがよいのかどうか心配しています。そもそも相撲が趣味ってどういうことなの(大相撲鑑賞なら趣味かもしれませんが)、ということもあるかもしれませんので、タイトルをこ

のようにさせていただきました。相撲の町に暮らしていることが趣味??ということで、相撲についての体験談、蘊蓄を語らせていただきますので、もしよろしければおつきあいいただければと思います。

◆国技館について

現在のご存じのとおり、国技館は両国にあります。JR 両国駅のすぐ北側となりで西口改札からだの数分で歩いていけます。筆者の中学時代の国技館は蔵前の国技館です(写真1)。両国に国技館が戻ってきたのは1985年(昭和60年)のことなので、筆者の歴史のなかではまだ蔵前の方が長いこととなります。ところで、「両国に



写真1 昭和29年：蔵前国技館 相撲案内所側入り口
(<http://www.k2.dion.ne.jp/~shiki/dion.shashin.htm>より、転載フリー写真)



写真2 日本大学講堂(昭和35年頃)

戻ってきた」と書きましたが、もともと両国に国技館があったことは知っておられる方も多いと思いますが、どこにあったかご存じの方は少ないのではないのでしょうか。元の両国国技館で相撲をとっていたのは第二次世界大戦の前の話なので、実際にそこで相撲を見たことがある方は本誌の読者でもほとんどいらっしゃらないと思います(Wikipediaで確認したところ厳密には戦後2場所大相撲を開催しているようです)。しかし、子供のころに、ここがもとの国技館だった、という話はよく聞かされました。場所はちょうど今の国技館とJRの線路を挟んで反対側(南側)の京葉道路沿いにありました。回向院というお寺の敷地で古くは江戸時代の興行につながる場所になります。戦後いろいろと経緯はあるようですが、筆者が子供のころは日大講堂として使われていて、看板も出ていました。特徴的な丸いドーム状の建物で大きな鉄の傘のようなので、「大鉄傘」のニックネームがありました(写真2)。大学だけの使用ではなく、プロレスやその他のイベントも行われており、記憶が間違っていなければ菊人形の展覧会を見に行った覚えがあります。その後老朽化して現在の国技館ができるまえには取り壊されて、現在は両国シティコアという何の変哲もないビルになっています。レストランやシアターX(かい)という小劇場が入っているので、食事や観劇でお出かけになられた方もおいでかもしれません。

◆中学校時代のこと-1 相撲部のこと

この記事のイントロダクションとなっているのは、今年6月に刊行された本誌第3号の編集後記です。その中で小生生まれも育ちも相撲の町両国で、中学のときにはクラスに力士がいた、親方に連れられて蔵前の国技館に顔パスで入れて貰った、などと書いております。もしまだご覧になっておられないかたは、ぜひご一読いただければと思います。なお、この中学校、以前はJR総武線の両国駅から学校の名前の看板(両国中学校)が見えたのですが、最近はなぜか見なくなってしまいました(写真3)。この編集後記では「相撲部にて…」と…で打ち切っておりますので、その相撲部の話から始めたいと思います(写真4)。

なぜ相撲部に入ったのかということやはり相撲が好きだったから、ということしかないかと思います。相撲部といっても学校に土俵があったわけではなく、普段は土のグラウンドに線で土俵を書いて練習していました。グラウンドを円形に掘って、周囲を藁で俵のようにして土俵を作ったこともあるのですが、屋根がないので雨



写真3 両国中学校通学風景
(一番背の高いのが筆者)



写真4 中学校相撲部合宿(上から3列目左から2人目が筆者, 右は拡大写真)

が降ると水がたまりすぐ崩れてしまい、くぼんでいるため水がはけないのでぐしょぐしょになってしまう、ということであまり役に立ちませんでした。どういうわけか突っ張りの稽古をする鉄砲柱だけはグラウンドの片隅にあったのですが。両国という土地であるにもかかわらず、それほど本格的ではなく、まわしも締めたことはありません。当時短パンの腰の部分にまわしとなるようなものがついている(すごく幅広のベルトがついているようなもの)相撲パンツ(URL: <http://www.e-sanpuku.co.jp/sumo/ring.html>)というものがあったのですが、それも使っていませんでした。たぶん、指導されていた先生が、「押さば押し、引かば押し、押しして勝つのが相撲の極意」(これは大相撲でもよくいわれる格言ですが)という方針だったからかもしれません。ただ、自分は腰が高く(現大関琴欧州のように足が長いため??)脇もあまく引っ張り込んで腕(かいな)を極(き)める、差したときは上背を活かして吊る、という相撲をとっていました(相撲用語が多くてすみません)。区内の相撲大会(といっても3校しか出ないのですが)ではあまり勝てませんでした。なお、この当時は今よりやせていたので、身長は新弟子検査に通るく

らいでしたが、体重は通らないため、力士になるのは断念しました(もちろん冗談ですが・・・)。

◆中学校時代のこと-2 相撲体操

当時この中学校では運動会の時などに相撲体操というのを男子全員が上半身裸でやっていました。塵手水(ちりちょうず)など相撲の所作や立ち会い、攻め、守りの形をとった体操です。また、現在日本相撲協会でも相撲健康体操というのを普及しようとしています(図1)。なかの動作はかなり共通しているのですが、全く同じではなく、どちらが先なのかはよくわかりません。あるいは全く独立してできたものかもしれません。

ちなみに大相撲で力士が土俵に上がったときに最初にする動作が塵手水です。これは古来相撲をとるときにそばにあった草(の露)で手を清めた(小生の記憶では体を清めると覚えているのですが、相撲健康体操の説明では手を清めたとなっています)ことと、そのあと手をひろげて何も(武器を)持っていないことを示した動作ということです。なお、このときの膝を広げてしゃがんでいる姿勢を蹲踞(そんきょ)といっています。

相撲健康体操

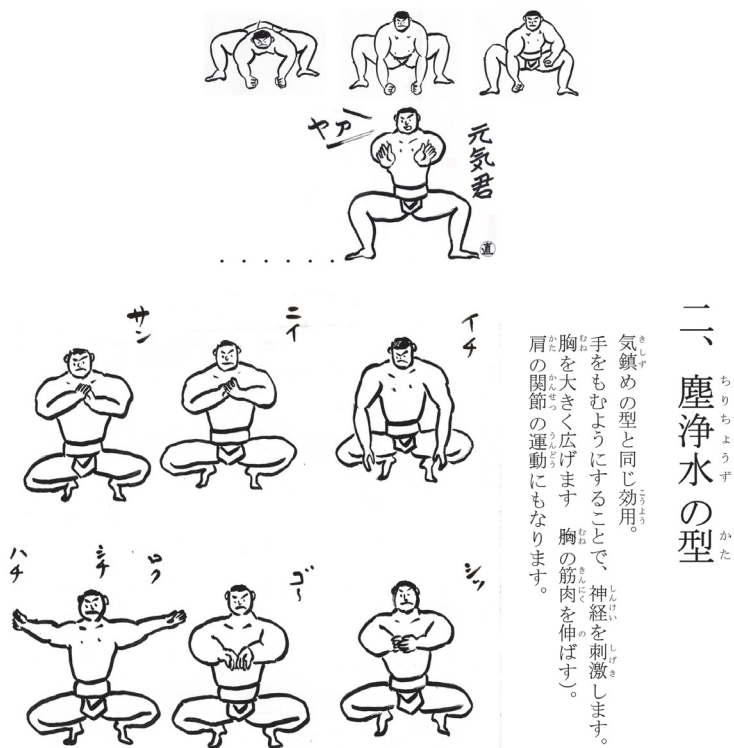


図1 相撲健康体操

(http://www.sumo.or.jp/kyokai/goannai/0016/sumo_taiso.pdf, 日本相撲協会より転載許諾済み)

なお、広辞苑には「手を清める水のない時、空(くう)の塵をひねって手を洗うかわりとする」となっています。学校の運動会ときだけでなく、国立競技場で行われた区全体の連合運動会ときにも男子全員でこの体操をしたのですが、そのときには相撲部員は前に出て模範演技をしました。いまだと上半身裸だと恥ずかしがる男子もいるかもしれませんが…

◆中学校時代のこと-3 当時好きだった大相撲力士

同学年で幕内に入るまで出世した(1場所だけ)のはひとりだけだった、という話を書きましたが、中学校出身(といっても部屋から通っていたということですが)で筆者の知っている

範囲で有名な力士は最年少横綱となった北の湖で、昭和28年生まれなので2学年上です。筆者が在学中はもちろんまだテレビにでる地位ではなかったと思うのですが、名前を聞いた覚えがあり、現役時代も理事長になってもヒール(悪役)的なところがあってあまり人気がなかったのですが、中学の先輩ということで筆者としては応援していました。

中学の時に一番好きだったのは、ちょうど全盛期だったと思うのですが、牛若丸といわれた藤ノ川です。小兵でしたが、土俵いっぱい動き回る相撲、立ち会いの瞬間に体を開いて相手の足を内側から外に蹴り払う蹴手繰り(けたぐり)も得意としていました(写真5: 蔵前国技館にて筆者撮影。絶妙なタイミングでとれていると



写真5 藤ノ川の蹴手繰り

思うのですが)。引退相撲も見に行った記憶があります。ちなみに藤ノ川は年寄りとして協会の理事を勤めて、つい先日定年退職したのですが、理事のころの4～5年前に中学校で講演をしたことがあります。筆者の子供が同じ中学校で、妻がPTA役員のためこの講演会の世話をしていたので、講演を聞きにいった、撮影したビデオの編集をしてDVDに焼いたりもしました。今でもこの元のファイルは残っています。

この当時は小兵力士で個性的な力士が多く、平幕優勝した「つり」が代名詞であった若浪や、むちゃくちゃな(セオリー無視の)相撲をとり、足を掛けて相手とともに後ろに倒れる河津掛けが印象的だった陸奥嵐、少し後になるかもしれませんが、右の上手から出し投げが得意だった栃東(少し前まで現役だった栃東の父、先代の玉ノ井親方)などが好きな力士でした。とはいっても、少し峠を越えていたのですが、大鵬もけっこう好きでした。のちに大鵬が脳梗塞になって慶應義塾大学病院に入院、その後当院でリハビリをしていたのですが、その外来受診時にちょうどリハビリテーション科のポリクリ(臨床実習)で外来の診察を見学して居合わせたことがあり緊張したことがありました(個人情報ではありますが、日本脳卒中協会のWeb siteで大鵬の脳梗塞体験記が掲載されており、慶應義塾大学病院に入院、リハビリしていたということが書いてありますので周知のことと思わせていただきました)。

◆相撲の技、決まり手

相撲は他のスポーツと比べて独特な技の名前や決まり手が多いと思います。そのためとつきにくいと感じておられる方も多いのではないのでしょうか。上手、下手から始まって腕(かいな)を返す、おっつけるなどよく使われる言葉だと思います。ちなみに上手(下手)をとる(本来は上手(下手)「まわし」をとるだと思いますが)、とは一般的には相手の腕の上(下)からまわしをとることを意味します。筆者が中学のときに勉強した相撲の本では、相手の内側に当たっている手が下手、外側に当たっている手が上手となっていました。ほとんどこの使われ方は聞いたことがありません。こういった相撲用語は好きで相撲中継を見ているとそのうちなじみがでてくるものと思います。ところで、上手といえば今年の名古屋場所(7月)通算1047勝の記録のあと引退した魁皇が右の上手をとると館内がわいたものでしたが、最近はこちらまで絶対的な型を持った力士は少ないかもしれません。型ではないと思いますが、9月場所後大関に推挙された琴奨菊のがぶり寄りは代名詞になっていると思います。

決まり手は古来48手で投げ手(投げ技)、掛け手、反り手、捻り手それぞれ12手ずつと決められていました。投げ手は腰を主に使うもの、掛け手は足、反り手は首、捻り手は腕を主に使うものというのが定義になっています。当時は現在のような土俵がなく、押し出しといった決まり手がなかったため、相手の足の裏以外を地面につけるのが決まり手であり、このように整理されたようです。

現在の日本相撲協会の決まり手は82手(うち12手は2001年初場所より制定されています)となっています。基本技7(押し出し、寄り切りなど)、投げ手13(上手投げ、下手投げなど)、掛け手18(内掛け、外掛けなど)、反り手6(居反り、撞木反りなど)、捻り手19(上手捻り、下手捻りなど)、特殊技19(引き落とし、叩き込みなど；これらが特殊技というのは少し意外ですが、上記5つの分類には入らないということだと思

います)。なお、勇み足、腰砕けなどは技をし
かけていない、ということで決まり手ではなく、
勝負結果とされています(5つあります)。これ
らの決まり手のなかでも反り手はほとんどみた
ことがないと思いますが、居反りはたまにあり、
筆者はアマチュア相撲の選手権でも見たことも
あります。You Tube では平成5年に智ノ花が本
場所で決めたものが動画で見ることができます
(<http://www.youtube.com/watch?v=OSPP7xgviis> ;
Google でも Yahoo でも「いざり・智ノ花」で最
初に出てきます)。まだまだ書きたいのですが、
あきてきた方もいらっしゃるかと思うのでこ
らへんにしておきます。ただ、相撲ファンは取
り口とか決まり手について語りたがるものな
ので、もし実演を希望される方は筆者にお声掛
けください。なお、決まり手については Web site
<http://www16.plala.or.jp/mr001/sumou.htm>「大
相撲決り手 82 手解説図」でアニメ動画での解説
図が公開されています(決まり手、アニメで検
索かけてもよいと思います)。

◆野見宿禰神社

両国(町名は亀沢)にある相撲と関連する神社
です。相撲の始まりは野見宿禰(のみのすくね)
と「當麻蹶速」(当麻蹶速:たいまのけはや)が
とったのがはじまりとされ、勝った野見宿禰が
相撲の神様として祭られています。神社入り口
の石柱には大日本相撲協会と刻んであり、まわ
りの石柱には建立当時の理事の名前が刻んで
あります。普段は境内に入れないのですが、歴代
横綱の名前を刻んだ石碑があります。筆者の住
んでいるところのすぐ近くで、しょっちゅう通
るのですが、国技館からだ歩いて10分強か
かり、それほど有名でないため、あまり相撲観
戦のついでに来る人もいません。ただ、来年5
月の東京スカイツリーのオープンに先立って、
この神社の近く(1ブロックとなり)にできる予
定のすみだ北斎美術館(北斎館)、江戸東京博物
館などとスカイツリーを巡回する墨田区の循環
バスが運行する予定なので多少見に来る人が増
えるかな、とも思っています(写真6~8)。



写真6 国技館と東京スカイツリー



写真7 野見宿禰神社



写真8 野見宿禰神社由来高札



写真9 北斎通り；街灯の北斎ギャラリー

なお、葛飾北斎はこのあたりで生まれており、野見宿禰神社から江戸東京博物館へ向かう通りを現在北斎通りと呼んでいます(昔は掘割りを埋め立てた通りだといっているので、割下水といっていました)。野見宿禰神社から北斎通りはさんで反対側、少し江戸東京博物館に寄ったところに東あられのお店があり、その前に葛飾北斎生誕の地という高札があります(お店では揚げおか



写真10 北斎生誕の地高札

き「北斎揚げ」を販売)。以前は江戸東京博物館の近く、地下鉄大江戸線両国 A3 出口から道路を渡ったところに、葛飾北斎生誕の地という記念碑があったのですが、撤去されています。北斎通りの街灯の柱には北斎の絵が書かれています(写真9, 10)。

◆ちゃんこ鍋

相撲の町両国というと、料理はやはりちゃんこ鍋ということになると思います。実際多くの



写真11 JR 両国駅西口にある駅周辺商店案内

(元力士名のちゃんこ専門店の名前がありますが、ここに表示されている以外にも、とてもたくさんあります。)

店があり、JR 両国の駅から石を投げればちゃんこ屋にあたるというか、居酒屋でもちゃんこ鍋を扱わないところはないという感じではあります(少しおおげさかも…) (写真11)。ちなみに相撲用語ではちゃんこは食事そのもののことを指し、相撲部屋で大勢の力士が栄養をとれるように鍋になった、といわれています。地元に住んでいてもしょっちゅういっているわけではないので、評論はそれほどできないのですが、専門店でも特徴がそれぞれあって、土俵を真ん中に囲んで席のある店、力士の名前がついている(スポンサーだったり、関係者がやっている)店などあります(霧島、寺尾など)。味もしょうゆ味のいわゆるソップ炊きが本道でそれだけを扱っている店もありますが、味噌、塩味などいくつかの味付けを扱う店が多いように思います。最近ではキムチちゃんこやカレーちゃんこ、焼きちゃんこなどもあるようですが、筆者はまだ食べたことはありません。やはり一人で食べるものではなく、みんなでワイワイいって食べるものだと思いますが、値段は安くそれなりにおいしいのでおすすめします。両国に相撲見物に来られた際はぜひちゃんこ鍋を食べていただければと思います。ご相談いただければお店選びのお手伝いができるかもしれません。

◆最近の大相撲のこと

最近の不祥事については、相撲ファンとしては悲しい限りでありコメントもないのですが、かなり特殊な世界である相撲界も少しは一般常識に近づかないといけないのだろうな、とは思っています。ただ、大相撲はやはり純粋なスポーツではないところがあるのは今後も必要と考えています。

今の力士で誰が好きか、といわれると少し答えに悩みます。平日はもちろんリアルタイムで相撲中継を見ることはできません。以前は夜 11 時台に民放で大相撲ダイジェストとして幕内の

相撲を全部放映していたのでしょっちゅう見ていましたが、中止となり NHK に移ってからは夜中の 2 時に放送されるため、起きているのもむずかしいという状況です。ですので、きちんと幕内力士全部の相撲を見ることができず、詳しく取り口を解析できていないため、なかなかどの力士、ということができない、というところではあります。あえていえば考えた相撲をとる、ということでは安美錦でしょうか。上位キラーでもありますし。でも、そのほかにもそれぞれ特徴があって好きなところがあるので、決めきれないのかもしれないかもしれません。

ところで、家族で応援している力士が十両にいます。元小結佐田の海の息子さんと、しこ名も同じく佐田の海という二世力士なのですが、筆者の次男が通っていた中学校の同級生(筆者と同じ中学校)なので、出世するのを楽しみにしています。残念ながら 9 月場所は 7 勝 8 敗でひとつ負け越してしまいました。

少し話は変わりますが、他にも(力士にはなっていませんが)元力士の子供と筆者の子供が幼稚園あるいは小学校で同級生だったという話はあって、有名な力士では千代の富士、霧島のお嬢さんなどがいます。

◆おわりに

かなりおたくな話を書いてきたので、はたして興味を持っていただけたかどうか心配ですが、ごくわずかでも相撲人気を取り戻す力になればいいなとは思っております。本稿を執筆していて改めて相撲が好きになったので、今後場所の間は夕方の相撲中継を録画して(途中飛ばしながら)食事の時に見ようかなと考え始めています。

また、ところどころで書いておりますが、もしさらなる蘊蓄を聞いていただける奇特な方がいらっしゃったら、筆者の顔を見かけた時に一声かけていただければと思います。